

令和7年度上京区民まちづくり会議「上京！MOW」 実施報告書

日時： 令和7年7月3日(木)18:00-20:00

会場： コミュニティ・バンク京信 西陣支店2階クリエイティブcommons NISHIJIN



上京区役所では、「人や団体がつながる場」として「上京区基本計画 2025」に掲げるまちづくりの将来像をテーマに、上京区民、上京区内でまちづくり活動をしている団体の皆様と意見交換を行いました。

50名の参加者が集い、始めに会場全体を使った自己紹介ゲームを通じて交流の時間をもちました。続いて、7つのグループに分かれ、これまでの5年間に取組まれてきた活動から得られた気づきを共有し、「今後、上京をどんなまちにしていきたいか」について話しました。最後に、グループ発表を行って、意見やアイデアを全体で共有しました。



プログラム

- 18:00 交流タイム
18:30 開会挨拶
新川達郎 上京区民まちづくり会議議長
多田有一郎 コミュニティ・バンク京信 西陣支店支店長
18:35 上京区民まちづくり活動支援事業「上京！MOW 部門」説明
事例紹介
18:45 基本計画に掲げる将来像をテーマとした意見交換
＜テーマ＞
1 文化を大切にするまちづくり
2 絆で支えるまちづくり
3 安心安全に暮らせるまちづくり(防犯、防災、交通安全)
4 産業・商店街の活性化によるにぎわいづくり
5 地域ぐるみの子育て
6 誰もが居場所や出番があるいきいきと暮らすことができる
まちづくり
19:30 グループ発表
19:45 議長総括
20:00 閉会



挨拶(新川議長)



挨拶(多田支店長)

意見交換

テーマ1 文化を大切にするまちづくり



これまでに様々な文化活動に関わってきた参加者で話しました。地蔵盆に音楽会を組み入れた事例や、「アートと交流」をコンセプトに掲げて地蔵盆のプログラムを作った事例が伝えられ、工夫しながら伝統行事を行っている様子が共有されました。

また、「堀川商店街に小さな映画館があるといいな」という声をきっかけに、「フィルムで撮影した映像をビデオに変換する方法があるよ」「昔の映像を上映したい」「クラウドファンディングを活用しては」など話がはずみました。

＜意見の一例＞

- 伝統工芸の分野にも、みんなが集えるようなオープンな場やコミュニティがあったら良い。
- 若い人たちに、これまで継承されてきた文化を伝え、地域の伝統行事を残していきたい。
- 着物以外の切り口で西陣織をもっとPRしてはどうか。

テーマ2 絆で支えるまちづくり



地域に関わりたいと思う大学生と、大学生の協力を歓迎する地域の方、若者の活動を支援する専門職の方がテーブルを囲んで話しました。

上京区に青少年活動センターはありませんが、「地域の自治会館を拠点に何かできるのではないかと、そうすると若者が自治会の祭りにボランティア参加できるかもしれない」と、新しいつながりが生まれそうな機運があったほか、大学生が今年の地域の夏祭りを手伝うことになりました。

<意見の一例>

- 飲み会への参加が地域の人と打ち解けるきっかけになった。大学生だが、町内会で役員をしており、地域の重要性を感じている。
- コロナ禍を経て、地域活動をしなかったことが当たり前になってしまったことを寂しく感じる。
- 町内会長として、地元建設されるホテルと折衝して災害時の協力体制を作ることができた。

テーマ3 安心安全に暮らせるまちづくり(防犯、防災、交通安全)



この5年間で、自転車の交通マナーや避難所運営において改善が見られた一方で、特殊詐欺が増えてきたなどと振り返り、5年間の動きが先の5年間につながっているとの認識を共有しました。

災害時に備え、日常における高齢者と近隣住民との顔つなぎの大切さや、路地奥にある家の安全性確保、空き家問題を解決する必要性について話し合われたほか、防犯カメラの是非についても意見が交わされました。

<意見の一例>

- 京都では、ご近所づきあいがあり知らない人を把握できるため、防犯カメラはあまり多くないが、安全性を考えると通勤・通学路、人通りの多いところには設置する方が良いかもしれない。
- 災害時に備えて、体育館にテントを確保してプライバシーに配慮できるようになった。
- 空き家を放置せず、貸すことのメリットを伝えていこう。

テーマ4 産業・商店街の活性化によるにぎわいづくり



北野商店街、千本商店街、堀川商店街の店主がそろい、少子高齢化に伴う顧客の減少と後継者不足などの課題に触れられ、商店街と直接関わりのない参加者から、質問や感想が伝えられました。

商店街の周辺にある観光地を訪れる人たちが商店街に足を運ぶルートができれば人の流れが変わるかもしれないとの期待や、商店街関係者だけでなく大学生や住民も一緒に話し合えば、商店街は変わるかもしれないとの期待が生まれました。

<意見の一例>

- 子育て世帯に来てもらいたいが、子どもの数そのものが減っている。
- 飲食店は元気があるものの、衣料品や肉・野菜などの物販は厳しい現状がある。
- 特徴のある一つのお店をきっかけに、人の流れが変わることもある。商店街の活性をもっと多面的に考えられると良いのではないかな。

テーマ5 地域ぐるみの子育て



「令和の番組小学校を作りたい」「地域の子は地域で育てる」「子ども食堂の運営や子どもを対象とする支援団体と協力していきたい」などの思いを持つ地域に根付いた活動を進めるメンバーがそろいました。

嘉楽中学校で2年前に始めた花火大会が多世代交流の場になっていることが紹介され、ボランティアサークルに所属する大学生が手伝いたいと意欲を示しました。また、子どもたちが紙製のロケットを作って飛ばせる場所を探しているとの声に対して、学校のグラウンドを始め利用できそうな場所について考えました。

<意見の一例>

- 学区意識に未来を感じる。「地域の子は地域で育てる」地域密着型の教育意識は尊いと思う。
- ボランティアサークルで活動しているので、ボランティアが必要な時に声をかけてもらえれば協力していきたい。
- ボーダーを取り払い、全ての大人が全ての子どもを支えるような仕組みを考えていきたい。

テーマ6 誰もが居場所や出番があるいきいきと暮らすことができるまちづくり

6-1テーブル



老人クラブと大学生が協力してみたり、日常の中にある居場所づくりとして園芸に取り組んだり、健康を意識してウォーキング会を行ったりする参加者が集いました。

「居場所を選べる方が幸せだろう」と話し、多世代交流ができる場や、障害のあるなしに関わらず一緒に楽しめるゲームやスポーツが紹介され、上京でも取り組んでみたいと話題になりました。昔と比べて今は居場所が自然発生しづらいからこそ、意図して作っていかうとの意気込みが語られました。

<意見の一例>

- 地域内のイベントはあるが、日常の中に居場所と出番がたくさんあるとは言いがたい。
- 居場所とは、人と人がいるところ。行ったら楽しいところ。お互いを尊重し、寛容であることが大事。
- 昭和時代は、空き地や河川敷で自由に過ごしたが、今は目的外で使用すると怒られてしまうような時代。安全への要求が上がり、居場所とできるところが減っている中、どのように居場所を作っていくかみんな考えていく必要がある。
- SNS が浸透してきているが、取り残される人が出てしまう。そういった人をいかに減らすかが大切。

6-2テーブル



定期的に高齢者が集まる場を持っている人、学生と地域とのつながりや体験を増やせるようコーディネートする人、子どもたちの学びと近所の大人が混ざりあうような本の仕掛けを考える人など、バラエティに富んだメンバーで議論が始まりました。

「多世代交流のまち」「声を掛け合える人がいるまち」「心が落ち着ける場がいっぱいあるまち」「認知症になっても楽しく暮らしていけるまち」「自分ごとだと思えるまち」といった切り口で、これからの上京のまちの姿を語りました。

<意見の一例>

- 「福祉」と言うとハードルが高いので、「福祉」未満の場、コミュニティスペースがあれば良いのでは。
- 何かしたい人はいるので、つなぐ仕組みがあると良い。
- 得意なことや好きなことを生かせる場があり、それぞれの得意なことをシェアし合えるとより良い。
- 上京の歴史や伝統を継承し、上京の文化を知ることができるイベントで交流できると良い。

新川議長の総括



地蔵盆を始め、これまで地域で行われてきたことを大切にしつつ、より良くして続けていきたいと伺ったことが印象的でした。小さな映画館を設けたいとの提案など、文化的な試みを復活させる姿勢も良いと思いました。

色々な出会いが今回の上京！MOW で生まれ、地域の皆様が力を合わせて様々なことを実現しようとする意欲に満ちていることが伝わりました。誰もが活躍できる場や機会を作ることによって、いきいきとしたまちができるのだと思います。一人一人の力を生かせる場や機会をどれだけ豊かに作っていただけるかど

うかがい大切で、そのような場があると、上京はもっと発展していくでしょう。

商店街が抱える課題も共有されました。なかなか厳しい状況の中にも、周辺の観光地を意識して商店街に足を運ぶルートづくりをするなど、見方を少し変えて、可能性を探り、色々な側面に目を向けることは、上京を発展させるときの種になるのではないのでしょうか。

一人一人、色々な能力やモノの見方を持っています。それらを多面的に捉えて生かせば、新しい出会いや地域の連携、新たな場づくりも進むのではないかと思います。

意見交換後の気づき・感想

- 上京！MOW の活気にビックリしました！ この地域を盛り上げられるようがんばります！
- 支援を受ける側が求める支援の形が重要だと思います。
- 地元・地域をより良くしようという会に、これほどのメンバーが集まることに驚きました。地域の力、つながりの姿がこれからの日本が迎える超少子高齢化社会を幸せに生きるモデルになると思います。
- 「誰ひとり取り残さないまち」を目標に、高齢者、大学生、障がい者、健常者、さまざまな人たちの多世代交流が大切だと感じました。
- 上京！MOW 全体を通して、皆様の理想とする姿とこの 5 年間の経過してきた成果が、共通して実を結んできている面もあると思いました。
- 参加された方々が、それぞれ素晴らしい意識をもって社会活動をされていることが分かりました。
- 地域の活動に参加したくても情報の無い人、方法の分からない人がいると思いました。広報の方法がもっとあると良いなと感じました。
- 安心安全も多様性の今、合意形成が難しいので、こういう場がとても大切だと思います。
- 初めて参加しました。すでに様々な事柄が進み、対策を講じてあることを知り、まちづくりの必要性を感じる事ができました。